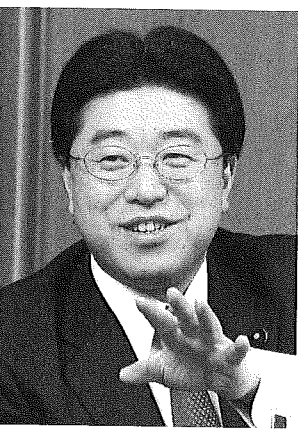


「財政再建」への道は、 まず「財政の見える化」から



参議院議員
たけや・としこ

1969年、北海道生まれ。創価大学経済学部卒。監査法人トーマツ勤務を経て、96年からアビームコンサルティング株式会社にて経営コンサルタントとして勤務。世界10カ国で企業などの経営改善を推進。公認会計士。2010年7月参議院議員に初当選。公明党女性委員会副委員長、青年委員会副委員長、国際局次長、財政・金融部会副部会長。



東京都議会議員
ひがしむら・くにひろ

1961年生まれ。創価大学経営学部卒業。88年公認会計士登録。16年間、民間企業や学校法人、公益法人の監査に携わり、監査法人の理事を経て、2001年東京都議会議員に初当選。現在3期目。公認会計士・税理士。都議会公明党の政務調査会長、公明党東京都本部の政策委員長。東京都議会・警察消防委員会副委員長、東京都税制調査会特別委員。

特別企画
地方政治から
国が変わる

対談

竹谷とし子 × 東村くにひろ

東京都は「財政の見える化」
（複式簿記導入）をして
「財政再建」の成功を収めた。
各地方自治体も国も
「財政の見える化」に
いま動きだしている。

公会計制度改革に 新しい風、 『複式簿記・発生主義』

竹谷とし子 二〇一〇年七月に参議院議員になって半年足らず、国の「財政の見える化」（複式簿記導入）の実現に向けて真剣に取り組んでいます。幸い、都議会公明党が提案し、推進役となって、東京都は〇六年度から全国の自治体で初の複式簿記を導入して、見事に赤字財政から黒字財政にしたという先例があります。

東村くにひろ 私が都議会議員になった〇一年、東京都の財政はどんな底で、「財政再建団体」（破綻状態にある地方自治体）へ転落の危機の状況でした。こういう状況になったのは、東京都の公会計（国や地方自治体が行う会計処理）が単式簿記であることに原因があると、公明党は考えました。

そこで公明党は会計制度の改革案を作成しました。その改革案に対して、石原都知事の英断で東京

都は一九九九年から〇五年は「機能するバランスシート」*1を作成・活用し、〇六年からは「複式簿記の本格導入」に踏み切っています。

その結果、いままで見えなかった都の財政状況が見えてきました。竹谷 確かに会計制度を変えると財政状況が見えてきますね。監査法人、経営コンサルタントを経験して分かったことは、会計の「見える化」を達成した企業はV字回復をしている企業が目立ちます。どっぷり勘定の会計で経営は成功しません。

例えば、どの事業が借金を生み、どの事業が利益を生んでいるのか。的確に経営の意思決定をするには、数字が見えているのかが重要です。

東村 会計の「見える化」をすれば、V字回復になるのはうなずけます。ところで、「財政の見える化」つまり「複式簿記」といっても、読者の方は、一体、どういうことか分かりにくいかもしれません。ここで「単式簿記」と「複式簿記」を説明

します。

簡単に言うと、単式簿記は現金の流れを把握するだけなんです。取引の賃借を記入せず、現金の収支しか記入しません。これが単式簿記です。公会計は「単式簿記」「現金主義」*2でやっています。

一方、企業会計は「複式簿記」「発生主義」*3を採用しています。複式簿記はお金の流れに伴って、モノを買った場合、それが、資産（財産）になるのか、費用で落ちるのか、勘定科目*4で表していきます。要するに、単式簿記はごまかしやすく、複式簿記は不正ができません。という特徴があります。

東京都は、制度導入により借金が把握できました。例えば、勘定科目が入っているのです、お金が入った場合、借金（負債）なのか、収入（売り上げ）なのか、資産なのか、明らかになるのです。

竹谷 そうですね。単式簿記はお金の出入れしか把握できませんでしたが、何が残っているのか分からない。

いま、話題の事業仕分けで「埋蔵借金」*5発掘などと言われていますが、単式簿記では、歳入・歳出などの正確な把握ができません。

一方、複式簿記では一目瞭然になります。現在の事業仕分けのやり方だと、表面上見えているものを仕分けしているだけであって、本質的な仕分けにはなっていません。

「財政の見える化」を 各自治体・国へ推進

東村 きちんとした事業仕分けをするためにも、「見える化」を急ぐべきですね。

いま東京都は、全国の自治体向けに「複式簿記」「発生主義」の考えを取り入れた新しい公会計制度を考える「フォーラム」を開いています。東京都で生み出した財政の知恵を自分たちだけのものにしないうで、広く情報を発信・提供していきます。

例えば、東京都が「財政再建」を成し遂げている複式簿記のソフト

*1 「機能するバランスシート」：資産額、コスト情報を把握、さまざまな事業を分析するツールとして活用するもの
*2 現金主義：費用と収益の受け取り・支払いがなされた時点で計上する会計処理
*3 発生主義：費用と収益の対象となる役務の提供や事実が起きた時点で計上を行う会計処理
*4 勘定科目：簿記で使用される、お金の場所、お金が入ってきた理由、お金が出ていった理由などを表す科目

システムを無料で提供しています。ケースによってはスタッフも派遣して公会計の改革を推進しています。大阪府、東京都町田市はすでに取り組み始めています。

竹谷 各地方自治体にさらに広がっていくよう、これからは頑張り時ですね。

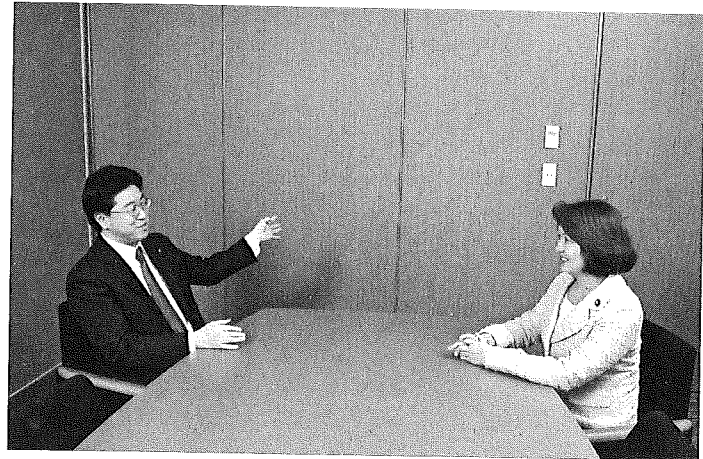
一方、国で「財政の見える化」はどのように進んでいるか、とよく聞かれます。いま財務省では、ゆつくりですが、徐々に、複式簿記導入への形を作ろうとしています。現在は複式簿記について、現場の方々もまだ理解していない状態ですので、活用方法を徹底する段階です。また国民の皆さまにも複式簿記制度の導入が、どういう意味があるのかよく理解されています。まだまだ課題は多いです。

「財政再建」にはまず「財政の見える化」

東村 「財政の見える化」が強調されていますが、結論は「財政再建」

会計の制度改革は意識改革から始まる

竹谷 議員になって先輩議員から「竹谷さん、何をやりたいの」という質問を受けました。とにかく、私は十八年間の経験（監査法人、経営コンサルタント）を活かして、国の「財政の見える化」に自分のエネルギーを使いたいと思っています。時局講演会で、都議会公明党が実質的に推進役になっている「財政の見える化」の成功事例を話しながら、国の「財政の見える化」について訴えさせていたでいます。他党が「透明化」「見える化」を



公明党の強みは国と地方をつなぐネットワークカ

です。「財政再建」するのに、借金がどれだけあるか分からない、資産の数字さえ分からない、そのような状況で財政再建などできるはずがありません。「見える化」は、ある意味、財政を健全化するため、複式簿記をツールとして活用することです。そのツールを先駆けて活用し、東京都はすごい改革

語っていますが、具体策はまったくありません。プロの目から見ても、国民の立場からの公会計制度改革案はこの党にもありません。民間企業で会計の制度改革をやるうえで、何がいちばん大事か、聞かれます。改革をするときに大事なことは意識改革です。そのために人の教育がセオリーとしてありました。私が言い出した時、周りも関心をもたれなかった。最近、東京都の実績を語りながらお話をすると、国でも「財政の見える化」をぜひ、やってほしいという人が増えています。国で「財政の見える化」を進めて

ができたんですよ。中身の話になりますが、バランスシートを作ったおかげで借金が分かったわけです。関係者は都債がいくらかは分かっています。それが、それ以外の借金がどれだけあるのか、ないのか、さっぱり分からなかった。見えなかったのです。「隠れ借金」が表に出ました。一兆千億円です。

具体的な話で言えば、多摩ニュータウン事業は収支均衡型事業（収入と支出を同じ、独立採算型）として行われてきましたが、バランスシートの分析によって、将来事業終了時でも債務超過を解消できないことが明らかになりました。その結果、事業縮小、収束することになりました。また、一九九〇年、東京都は町田市多摩境の土地を購入。九〇年から二〇〇六年まで、バブルがはじけたこともあり、

買った土地の価格が下がりすぎて、売りに売れない状態に。金利だけを払うという策しかなく、二千二百億円の欠損状況でした。そこで発想の転換で「とにかく土地を売ろう」という結論ができました。東京都は職員の代表が「営業部隊」を作り、土地を売り切りました。現在は、街も活性化し、借金もなくなりました。こうしたことを行いながら、複式簿記のおかげで、財政再建ができ、東京都の隠れ借金もなくなったのです。

さらに意識改革がありました。単式簿記でやっている、予算で残った金をどうするか。繰り越す先がないために、「余ったら、とにかく使え」という発想でした。複式簿記にしてからは、積み立てるという発想になっています。当時、議会で「余った金をなんで積み立てるんだ」というヤジが飛び交っていたこともあり、新しいことをするときにはいろいろありますが、竹谷さんには頑張りてほしいです。

いくうえで大切なこととして、活用の仕方が分からなければなりません。そうしないと公会計改革は実現はできません。いまはまだ官僚の方々も、一部の人だけしか関心がありません。時間をかけて理解を得ていかなければならないと実感しています。**東村** 確かに理解を得るのは大変です。また、理解を得るためには、東京都の実績を広く世間に知らせていくことも重要なことです。しかし残念なことに東京都の「財政再建」についてマスコミは取り上げようとしません。東京都の「財政

の見える化」は一〇〇%ではありませんが、確実に財政再建の方向になっていきます。今後の話ですが、東京都は、「国際会計基準」を目指していきます。**竹谷** 国の「財政の見える化」も徐々に動きだしているところですが、いまは、関連の法律作りを進めなければなりません。公明党の良さは、地方議員と国会議員のネットワークの強さです。「財政の見える化」が各地方自治体にさらに広がり、国もそれに合わせて「見える化」が進んでいくよう、公明党の力を遺憾なく発揮していきます。

図書新聞

書評とは、文化である。

書評とは、芸である。

書評とは、発見である。

書評とは、愉悅である。

書評とは、理解である。

書評とは、誤解である。

書評とは、闘いである。

書評とは、愛である。

書評とは、志である。

図書新聞は、
生きた批評をお届けします。

毎週土曜日発売

全国の書店、定期購読で
お求めください。

◇定期購読をおすすめします。

1年・48週 11,520円
半年・24週 6,240円

図書新聞

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-34
TEL03-3234-3471 FAX03-3261-4837